



癒しの部屋の主(渡辺知也さんを送る)

著者	大平 桂一
引用	国際文化. 2004, 5, p.110
その他のタイトル	For a Retiring Colleague
URL	http://hdl.handle.net/10466/2690

渡辺知也さんを送る

渡辺知也さんが2004年3月末で大阪女子大学を定年退職される。1986年4月に本学英文学科教員としてご着任以来、18年間在職された。本学改組の1999年からは、国際文化専攻教員として種々の仕事を担ってこられた。渡辺知也さんへの感謝と感慨を込めて編んだのがこの頁である。

渡辺さん、どうかお元気で。

癒しの部屋の主

大平桂一

初めて渡邊さんを間近に見たのは、笠置山への組合のハイキングの時であった。コールテンの上下にベレー帽といういでたちで、なんと様になった不良中年紳士かと思った。ところが学校にもどりよくよく観察すると日常はジャージの上下にサンダルか、作務衣に下駄履きというラフなスタイル、これにはまいった。

女子大の改組で研究室が同じ階になり、用事で渡邊さんの部屋に行ってこれまたびっくり、床には厚い絨毯、ゆったりとしたソファ、机にはサモワールといった異次元空間、しかし居心地がよく何時間でもくつろいでいられるのであった。そこは癒しの部屋とも称され、心に悩みをかかえる私のような教員の溜まり場ともなっていた。

聞くところによると、退職後はスイスに移住されるとのこと。愛車のコンバーチブルトラバント（VWのエンジンを搭載した東独製の車。ちなみに彼は知られざるカーマニアである）を駆り、更に幸福なる人生を送られることを確信する。

人生の達人渡邊さんに幸いあれ！

悠哉游哉

清原文代

ここ数年教務委員を拝命している。心配性の私は「あの書類はもう出しましたか。」等々つつい小うるさく言ってしまう。20歳以上年上の渡辺教授に